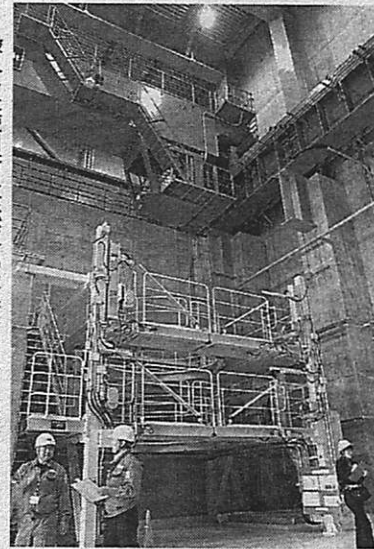


# 中間貯蔵施設 29日完了

東京電力と日本原子力発電(原電)が出資するリサイクル燃料貯蔵(RFS)が青森県むつ市に建設している使用済み核燃料の中間貯蔵施設「リサイクル燃料備蓄センター」の建屋が29日完成する。原子力発電所から出る使用済み核燃料を原発敷地以外で貯蔵・管理する初の施設で、12月の核燃料サイクル関連の新規制基準施行を踏まえ、操業時期を慎重に判断する。



搬入した使用済み核燃料の容器を調べる検査台(26日、青森県むつ市)

RFSは26日、建屋内部などを報道陣に公開した。建屋に入ると、すぐに「キャスク」と呼ばれる金属製容器(高さ約5・4m、直径約2・5m)に入れた使用済み核燃料を施設内に搬入する受け入れエリアになる。

同エリアではキャスクを計288本収納できる。同センターは27日から2日間、国から吸排気温度計や放射線監視装置といった機器類の検査を受け、29日に建屋完成となる。

を最終的に計5千ト、50年間保管する。RFSは当初、今夏の東電の柏崎刈羽原発の使用済み核燃料を搬入して、使用前検査を受けて合格すれば10月に操業を始める計画だった。しかし、原子力規制委員会が、

新基準施行後も検査や青森県などとの安全協定の締結時期などは不透明だ。RFSは「施行後速やかに操業に向けた事業計画変更申請を出せるよう準備に万全を期した」といふ(久保誠社長)としている。

「損害あれば漁業者に賠償」東電社長 汚染水漏れで東京電力福島第1原子力発電所の貯蔵タンクから汚染水が漏れた問題で、同社の広瀬直己社長は26日、福島県楡葉町の福島復興本社で記者会見し「大変なご心配をおかけしている中で今回の汚染水漏れが起きた。あってはならないことで改めて

キャスクを横にして置く台が8つ並んでおり、一番奥に作業訓練用の模擬キャスク1本が置かれていた。キャスクは天井の移動式大型クレーンでつり上げ、検査架台に運んで1本ずつ検査を受ける。検査を終えたキャスクは隣接する貯蔵エリアに運ばれて所定の位置に据

核燃料サイクル施設をめぐっては、日本原燃が青森県六ヶ所村に建設中の使用済み核燃料再処理工場についても、規制委が12月まで使用前検査を行わない方針を表明。原燃は10月に予定していた工場完成を断念、199

3年の着工以来20回目の工期変更(延期)を決めた。新規規制基準の施行に加えて、核燃料サイクル施設の稼働開始に不透明感を投げかけているのが、原子力関連施設が集中立地する下北半島の「断層問

題。原子力規制庁は20日、同半島地下断層の調査を年度内に始めると発表した。調査対象には、一部専門家が巨大地震を引き起こす可能性を指摘している「大陸棚外縁断層」も含まれるとみられる。規制庁とは別に、RF

「断層」問題で不透明感 新基準施行後も検査や青森県などとの安全協定の締結時期などは不透明だ。RFSは「施行後速やかに操業に向けた事業計画変更申請を出せるよう準備に万全を期した」といふ(久保誠社長)としている。

## 仙台三越、食品を強化

### きょう「生鮮」先行開業

改装に10億円

仙台三越(仙台市、渡辺憲一社長)が大規模改装を進めている食品フロアが今月から順次開業する。27日に生鮮売り場が先行オープン。10月下旬の全面開業を目指す。配管などの設備まで抜本的に工事するのは26年ぶりで総投資額は約10億円。「デパ地下」の強化で消費を喚起し年間約15億円の増収効果を見込む。

北地区で初めて三重県の松阪牛の老舗「柿安本店」が出店。関西や首都圏中心に展開する食品専門店「北野エース」も仙台地区で初出店となる。改装では通路幅を30、60センチ広げるなど買い物しやすい環境を整備。テナントの入れ替えも進め食品フロア全体で約30%が新店になる。

今後は10月中旬に本館地下1階で和菓子や地酒、仙台銘菓などを扱う「和のスタイル」ゾーンを開業。10月下旬に全面グランドオープンとなる。

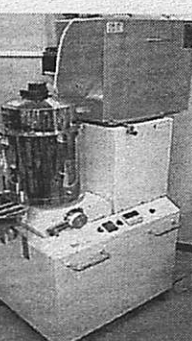
## 山形大学は米を炊飯せず

に粉砕するだけで瞬時にアルファ化できるアルファ米製造装置「写真」を開発した。粉砕した米粉に水を加えるとおかゆとして食べられ、震災時などの非常食になる。

山形大学は米を炊飯せず、に粉砕するだけで瞬時にアルファ化できるアルファ米製造装置「写真」を開発した。粉砕した米粉に水を加えるとおかゆとして食べられ、震災時などの非常食になる。

山形大学は米を炊飯せず、に粉砕するだけで瞬時にアルファ化できるアルファ米製造装置「写真」を開発した。粉砕した米粉に水を加えるとおかゆとして食べられ、震災時などの非常食になる。

## アルファ米 瞬時に製造



山形大が装置開発 岡沼博教授らの研究グループが、粉砕機メーカーのセインシ企業(東京・渋谷)と日式製粉メーカーのウエーブ工業(山形)と共同で開発した。これに対し、今回開発した装置は米粒をセ氏100、120度に加熱した白入る産学連携の見本市「イ」状態で成功し、013」に出展し、商談にた。炊飯工程がないので大つなげる予定だ。

## 福島・田村に新工場

### 超硬工具JAST 茨城から移管

超硬工具製造販売のJASTが茨城の本社工場の機能を「のこす」。

超硬部分と金属を接合するための高周波過熱機やマシニングセンターなどを配備する。9月に着工し、年内に立地補助金を活用する。総投資額は4億4000万円、福島県内の設備投資を助成する県の「ふくしま産業復興企業」に使う特注の切削工具。生産するのは、アスファルトを掘り起こすために使う機器の先端部分など。